ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌
155 号
2024 年 8 月 25 日発行号

『こすげ冒険学校』を開催しました！！

2024 年度こすげ冒険学校後記

こすげ冒険学校村長　　贄田（にえだ）隼人（自然文化誌研究会運営委員）

８月３日から９日にかけて行われた、2024 年のこすげ冒険学校が無事に終わりました。今回は 26 名の参加者となり、ここ数年でも特に人数の多いものでありました。また、今までも夕立があったり、台風の接近で終日雨なんて日があったりはしましたが、今回は初日と最終日を除く中５日の全てで雨が降ったという点でも珍しいものだったと思います。

午前中の晴れている時間には川遊びをたくさんしました。川の冷たさに最初は悲鳴を上げていましたが、それよりも川の中の景色に多くの子が魅了されていました。ゴーグルや箱メガネで岩陰を泳ぐヤマメなどの魚を見つけると、みんなで追いかけ、多い日には５匹ほどバケツに入っていた日もありました。

水の掛け合いももちろん楽しいのですが、個人的には飛び込みがなにより面白いです。少し高い岩場に立ち、流れる川を目の前にする緊張感。意を決して飛び、川に沈んでいくときの冷たさ。頭のてっぺんまで水を感じたころに体が浮き始め、川の流れで足が立つところまで来たときの安心感（スタッフはだいたいここで水をかけられます）が他にはない経験です。今回もリピーターの参加者やスタッフが飛ぶのを見て、自分も！と挑戦し、飛び込みの気持ちよさを味わった子がたくさんいて嬉しいです。

下流に大きな石を積み水かさを増やすこと（ダム作り）や、上流に石を並べ大きな水の流れを作ること（ウォータースライダー）も川遊びの楽しみ方の一つです。今回は午後からの雨で崩れてしまう場面もありましたが、それもまた水の流れの強大さを感じ取る一因となったのではないでしょうか。

午後は雨が降ることが多かったので、工作や焚き火、それとゲームを楽しむ子が多かったです。やはり焚き火の魅力は何事にも代えがたく、落ちていた石を焼いたり、山から持ってきた杉の枝に火を移してみたりと思いつくまま色んな楽しみ方をしていました。そうはいっても、子どもたちも初めから火を上手に扱えたわけではありません。マッチだけを燃やし、首をひねっていた子もいましたし、そのままの新聞紙に火をつけ、板に燃え移るのを期待する子もいました。その試行錯誤をスタッフは見守り、一緒に楽しみます。「どうして新聞紙には火が点くけど、木が燃えてくれないんだろう。」「マッチだけでは火は大きくならないんだ。」子どもたちはたくさん考え、学んでいきます。時には自ら気付き、時にはスタッフからやり方を聞き（スタッフによって教える内容はそれぞれです）、だんだんと上達していき、大きな焚き火を作ったり、お風呂を沸かせるまでになりました。

また、雨も多かったのでゲームをして過ごす時間も多かったです。ウノや大富豪といったカードゲームやログハウスを使ったかくれんぼなどが行われる中で、子どもたちからも面白かったという声が多かったのはモルックでした。数字の書かれた 12 本のピンを倒し、指定された点数を目指すスポーツです。本来の遊び方であるチーム戦、人が少なければ個人戦のルールを考え楽しむなど、集まった人数や年齢に合わせて柔軟に対応しながら遊んでいました。ルールが単純だからこそ誰でも遊びやすく、また、倒れたピンの位置で場が広がっていくので同じ展開はない偶然性が魅力です。

ここに紹介した遊びは、子どもたちが過ごした７日間のほんの一部でしかありません。それくらい、子どもたちはよく遊び、小菅というフィールドを味わい尽くしてくれました。そんな子どもたちとともに冒険学校を楽しみ、そして支えてくれたスタッフのみんなには感謝するとともに、これからも面白いことをやっていければと思っています。

最後に、こすげ冒険学校に携わった人すべてが、面白そうなこと、楽しそうなことへのアンテナをこれからの生活でも生かし、冒険心をもって過ごしていくこと願って、結びとさせてもらいます。

＜参加者の感想＞

矢部湊人くん（小学校４年生）

僕が小菅冒険学校での楽しかったことは川遊びや、焚き火、食事作りです(食事)川遊びでは、川に潜り魚を捕まえたり、カニを捕まえたり、釣りでは一匹もつれなかったけれどとても楽しかったです😄

焚き火(たき火)は、マッチなどで燃えやすい素材から燃やしていくなど、いろんな所で頭を使いました!!・
ピザ窯を一から組み立てて、自分でコネたピザの生地に自分が好きな具材を乗せられたことは嬉しかったです😄サイコーに美味しすぎるピザでした(最高)

明日何をしたいかなどの夜のミーティングでは色んな意見が出たけれど、ダニエルやチーター、スタッフの皆さんは、とても優しく聞いてくれて色々なことを教えてくれました!!・
来年も絶対に参加したいです🤗

井上真依さん（小学校４年生）

一番楽しかったことはピザ作りとブランコです。ピザ作りは来年はピザ窯から一緒に作りたいです。今回はみんなとログハウスで寝られて楽しかったです。

井上敬生くん（小学校６年生）

今回の冒険学校は前回より人数が多く、色々な人と遊ぶ機会がふえて盛り上がりました。一番楽しかったことは、みんなでウォータースライダーを２日かけて作りすべったことです。はじめは流れが遅かったけど、川の底を掘るにつれ流れが強くなりました。１回目にすべった時はお尻をぶつけたのでリベンジして深く掘りました。その後のスライダーは最高でした！来年はまたみんなと会ってモルックをしたいです。

池森仁くん（小学校４年生）

◯キャンプでは、毎食後、食器を水で洗えなかったので、消毒液をつけたティッシュで吹いたり、お湯を注いだりして、食器をきれいにするのが大変でしたが、川をきれいに保つ努力を学びました。

◯モルックを知って、みんなで楽しめたのがよかった。またやりたい。

◯ナイフ作りでは、まず、アルミ板をナイフの形に切るのが難しかった。ナイフの刀のところをトンカチで叩いて薄くしたけど、それでは切れなかったので、砥石で頑張って研いだ。そのナイフで草がスパっと切れたのが気持ちよかった。でも、それでは危険なので、鞘も作った。

◯白糸の滝の近くでは、しぶきを浴びて、とても気持ちよかった。そこにずっといたかった。

田舎の蚊は刺されたら、都会の蚊よりもすごいかゆい。

◯燃やすところが雨で湿ってたので、中々火がつかなかったけど、酸素の通り方を考えて薪を入れて、火を起こし、お風呂を沸かしたのは大事な経験だった。

＜スタッフの感想＞

室萌子さん（もえこ＝東京学芸大学２回生）

約１週間ありがとうございました。

初参加で不安や緊張がありましたが、皆さんの優しい声掛けやサポートのおかげで楽しい思い出になりました。

自然の中で、普段では味わえない経験ができ、子供たちに負けないくらいキャンプを楽しみ尽くすことができました。

他のスタッフのみなさんに感化されながら成長できた１週間でした。さまざまな考え方や価値観がある中で、「子供たちのために」という共通認識のもと、尽力している姿に感銘を受けました。

自分もその一員になれたことが大変嬉しかったです。

誘ってくださった方々、このような貴重な機会をありがとうございました。是非また参加させてください。

田中麻結さん（でんでん＝東京学芸大学１回生）

今回は三日間しか参加することができなかったが、とても楽しかったと同時に有意義な時間であったと感じた。途中参加ということもあり、馴染めるか不安であったが、子供たちが初日から声を掛けてくれたため、とても助かった。そのおかげもあり、たくさんの子と喋ることができ、一人一人の個性を掴むことができた。ただ、叱ることがとても難しく、その基準もよく分からなかったため、肯定することしか出来なかったのが、反省どころであると感じた。子供達と遊んでみて、自分の素で接することが彼ら彼女らを１番楽しませることができるということに気づかされた。

私自身が楽しむことが、一緒に体験することへと繋がると感じる。また、知識不足を大きく感じた。質問をされても、「なんでかなー、こうなんじゃないー？」と曖昧な答えしか出すことができず、とても悔しかった。自然に関する知識を持つことは、児童の興味を増進させ、次に何を取り組めば良いのかを明確にすることができるため、大切だと感じた。

また、今回小集団に行けてとても良かったと思う。雫さんをはじめ先輩陣から、焚き火の事、テントのこと、雨の際の準備方法など、様々なキャンプ場で生き延びる知識を教えてもらい、子供達に伝えるべきことを学ぶことができたため、自分自身の成長に大きく繋がった。スタッフの成長のための小集団は有意義なものであると感じる。

たくさんの方々に支えられてとても助かりました！本当にありがとうございました。次回はフル参加目指してみます！

福嶋亜依さん（ちゅわん＝東京学芸大学３回生）

今回のキャンプでは、３年生にして初めて体験したことがたっくさんあり、川遊び、沢登り、ドラム缶風呂、五右衛門風呂、釣り、小集団、今まで感じられなかったキャンプの楽しさを身をもって実感することができてとても嬉しかった。

係を担当している工作では、特にナイフ作りにおいて、刃に終わらず、柄と鞘も作って完成させている子がほとんどだったことが、過去と比べた時に変化している点だと感じられた。

また、作るに終わらず、砥石で研いで野菜を切るところまで自分の意思でやり、

使えた！という嬉しさと、達成感の表情も表れていた子がいたことも喜ばしく思う。

今回、川遊びを始めとした初体験のことと工作で違いとして考えられることは、

工作は子供の制作を見守る・見届ける姿勢でいられることが多いことに対し、川遊びなどは子供が感じている楽しさを自分も同時に感じられることだと思われる。

新しい「楽しい」を発見しつつ、それぞれにそれぞれの楽しさがあることを今回実感を通して感じられて、とってもとっても楽しかった！！

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう

令和６年度の助成を受けて開催しました。